

■東日本大震災・震災遺構シンポジウム

震災遺構の保存に向けて

東日本大震災では約2万人の方が犠牲となりました。この大災害を体験した私たちは国内外で二度とこのような悲惨なことが起きないことを願っており、そのために今回の震災の史実を確実に後世に伝える義務があると考えます。すでに被災地では写真・ビデオなどによって記録され保存されつつあります。しかし次世代の人たちには震災遺構を自分の目で直に見て津波の脅威を「実感」してもらうことが是非とも必要です。さらに遺構の保存は被災地の復興を推進する上できわめて重要な役割を担うものと確信しています。

現在、我々は「3.11震災伝承研究会」を発足させ様々な観点から議論をはじめており、すでに震災遺構の重要性を強く認識しています。一方、被災地の自治体の多くは震災遺構を残したいと考えていますが撤去事業の期限が迫っていることから保存を断念する可能性も出ています。また住民の中にはあまりにも津波の破壊力が強烈だったことから早期の撤去を希望している人もいます。このままではすべての震災遺構が1～2年以内になくなってしまいます。

今回のシンポジウムでは、過去の被災体験者をはじめとさまざまな立場の人に参加してもらい震災遺構保存の意義、課題などについて意見を交換し、保存実現のための方策を模索します。

■主催

「3.11 震災伝承研究会」

■共催

東北学院大学、(社)中越防災安全推進機構、日本災害復興学会復興支援委員会

■開催日時

2013年2月23日(土) 13時30分～16時45分 (開場; 13時)

■場所(会場)

東北学院大学 押川記念ホール(8号館5階) 住所: 仙台市青葉区土樋一丁目3-1
(<http://www.tohoku-gakuin.ac.jp/campusmap/>)

■参加費

無料

■お申し込み

不要(直接会場にお越し下さい。満席の場合、立ち見になることもございます。)

■お問い合わせ

3.11 震災伝承研究会 事務局 311densyo@gmail.com



震災遺構の保存に向けて

プログラム

1. 基調講演「研究会の活動報告」(13:30~14:00)

木村 拓郎 (3.11震災伝承研究会座長、(社)減災・復興支援機構 理事長)

2. 研究発表「私たちが考えた3つの津波対策」(14:00~14:15)

女川町立女川第一中学校の生徒さん

3. シンポジウム (14:30~16:45)

○コーディネーター

平川 新 (東北大学 教授)

宮城 豊彦 (東北学院大学 教授)

○パネリスト (五十音順)

伊藤 和彦 (宮城県震災復興・企画部長)

今村 文彦 (東北大学 教授)

齋藤 隆 (元新潟県長岡市山古志支所長)

原田 浩 (元広島平和記念資料館長)

宮下 加奈 (火山市民ネットワーク 事務局長)

山本 正徳 (岩手県宮古市長)

● ポスター展示

シンポジウムの開催に合わせ震災遺構と連携が必要なジオパーク関係のポスターを当日、会場ロビーに展示します。

● アクセスマップ

